日本と韓国における各国内プロスポーツのイメージに対する相関認識に関する研究
～みるスポーツに着目して～
A study on the correlation about image of national professional sports between Japan and Korea
-Focusing on “Spectator Sport”-"

1K06B247　　林　錫峻
指導教員　主査　原田宗彦先生　　副査 木村和彦先生

【緒言】

「スポーツはマス･メディアの普及によって、人類共通のマス・ソフトに進化した」と広瀬（2005）は述べている。スポーツとメディアが日本及び韓国で最初にかかわりを持ったのは、活字メディアの新聞である。それから、ラジオ→テレビとメディアとスポーツは関係を深めてきた。日本と韓国では近年、スタジアムでの観戦及びメディアを通しての「みるスポーツ」が注目を浴びている。そこで、本研究では「みるスポーツ」に着目して、日韓における各国内プロスポーツの認識について比較検討した。

【研究目的】

本研究の目的は、質問紙調査により、①スポーツへの関心及びする目的、みるスポーツに対する関心及び観戦経験を日韓の大学生で比較検討するとともに、②国内プロスポーツのみるスポーツへの認識に対する日韓の共通点及び異なる点を検証・考察することである。

【研究方法】

本研究では、日本と韓国の大学に通っている一般の大学生を調査対象とし、日韓の大学生が信頼のある比較対象となるように、条件の統一として日本、韓国ともに三つの大学で、日本の大学生には日本語の質問紙を、韓国の大学生には韓国語の質問紙を配布した。調査項目には、「調査対象の特性」、「日本と韓国におけるみるスポーツの現状」、「国内プロスポーツの観戦に対する態度」、「国内プロリーグ（サッカー及び野球）の観戦/視聴に対する認識 」の４つの大きな枠組で分けて実施した。統計処理及び分析は McLeod&Chaffee(1973)の相互志向性モデルの一つである「客観的一致度」の概念に属して、SPSS 15.0 J for Windows を用いてｔ検定を行った。

【結果と考察】

質問紙は、日本の大学（早稲田大学、中央大学、法政大学）で 130 部、韓国の大学（釜山外国語大学、釜山大学、慶星大学）で 137 部回収できた。

①スポーツへの関心においては、日本の大学生が韓国の大学生より、全ての項目で高い関心を示す結果となり、スポーツをする目的の項目では、両国のスポーツ文化の違いが表れた結果となった。 日本の大学生は、競技として、健康維持、そして趣味・楽しみと競技スポーツから生涯スポーツまで様々な目的を持って、スポーツをすることが明らかになったが、韓国の大学生は健康維持、美容・ダイエット、そして趣味・楽しみの項目に回答が集中していることから、競技としてスポーツをするよりは、レジャーの一つとしてスポーツを楽しんでる学生が多いということが推測された。みるスポーツに対して

は、両国の大学生とも肯定的な意見が集まったが、テレビでは大きな差がなく、スタジアムでの観戦では日本の大学生が多く、ラジオでの視聴経験においては、韓国の大学生が多い結果となった。韓国では、プロスポーツをスタジアムで直接観戦する文化がまだ多くの人に定着されてなく、テレビやラジオを通して、スポーツを間接観戦する文化が一般的であることが明らかになった。

② 本研究では、日本と韓国におけるプロスポーツに対するイメージ、認識、個々に及ぼした影響の客観的一致度を分析してみたが、プロ野球以外の全ての要因で有意差がみられ、日本の大学生が高く評価していることが明確になった。

これらのことから、韓国の各競技団体はマーケティング機能を強化し、試合の質を向上を目指しかつ、基盤になる施設を確立し、観客や視聴者に余暇活動の新しいコンテンツとしてアピールしていくことが必要になると考えられる。